

午前8時30分、有田町の最初の訪問地は「泉山磁石場」です。早朝にもかかわらず、バスの到着を待って下さいましたのは、有田町立民族歴史資料館の尾崎館長様と有田町役場の鷺尾商工観光課長様です。

17世紀初期、朝鮮人陶工・李参平りさんぺいらによって、有田の、ここ泉山で磁石が発見されたことにより、有田で産業としての磁器の製造が始まったとのことでした。



次に、佐賀県重要文化財「有田異人館」を見学しました。有田焼創業400年を記念して復元保存修理工事が完了したばかりの「有田異人館」を見学することが出来ました。

この異人館は、有田の陶磁器の貿易商の「田代助作すけさく」氏が陶磁器の買い付けに訪れた外国人の宿泊や接待をするための建物として、明治9年に建てられたもので、外国人向けに西洋風に造られた、佐賀県で最も古い洋風建築とのことでした。

「陶山神社」へ向かう途中に佇む銅像がありました。この銅像は、大正時代、有田の町おこしの先駆者として活躍された「深川六助」の碑です。当会の星野副会長のお爺様とのことでした。

ここから先、急な階段を登ったところが「陶山神社」です。元気な方だけが参拝をいたしました。

残された時間で、2手にわかれて「深川製磁」と「香蘭社」を訪ねました。

そして、午前10時20分、県立「九州陶磁文化館」へ向いました。

館内では、有田町の山口町長様が出迎えて下さり、心温まる歓迎のお言葉を頂戴いたしました。

そして、山口町長様を囲んで記念写真を撮ったあと、館内を見学、陶磁器の美を観賞いたしました。



九州陶磁文化館をあとに、次は「柿右衛門窯」を訪ねました。工房の見学を楽しみにしていましたが、連絡の行き違いがあり、残念ながら工房見学は出来ませんでした。

有田、最後のコースは「有田焼卸団地」でのショッピングです。皆さん各窯元の作品、商品を眺め、懐予算で買い求めて頂き、地元の経済に微力ながら協力させて頂けたのではないかと考えております。

午後12時50分、昼食会場であります塩田町の「うなぎ屋」に到着しました。

玄関口で、嬉野市の谷口市長様から心温まる歓迎のお言葉を頂戴して、一緒に昼食の「うなぎ」を頂きました。天然ウナギで大変美味しかったです。

昼食を終えて、うなぎ屋の玄関前で、谷口市長様を囲んで記念写真を撮り、谷口市長様に見送られながら塩田町を後にしました。



いよいよ最後の訪問先、今回の旅の3つ目の目玉である、世界文化遺産「三重津海軍所跡」を訪ねました。

この「三重津海軍所跡」は、幕末の海軍の様子や日本の伝統技術や自然環境を巧みに使った洋式船の運用方法が具体的にわかる貴重な遺跡として、平成25年に国史跡として指定され、世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産になっています。

社会を、地球を、未来を豊かに

株式会社戸上電機製作所

代表取締役社長 戸上信一

本社 840-0201 佐賀市大財北町 1-1
TEL(0952)24-4111/ FAX(0952)24-4594

関西オフィス 564-0053 吹田市江の木町 12-5
大阪戸上ビル

TEL(06)6386-8961 FAX(06)6338-1375

